令和６年度　学校自己評価アンケートの集計結果を受けて
～ 向上策・改善策～

学校自己評価委員会

１　児童生徒アンケートより

これまでのアンケートは項目数が多く、多くの生徒に後半の設問になると的確な判断をしにくい姿が見られていた。そこで、生徒が返答しにくい表現、内容の重複などを含めて見直しを行い、１６項目だったものを１０項目に絞り実施した。「学校生活」「授業」「先生」の各項目で優先すべき項目を残し、データと比較検討できる相関も考慮した。

結果はほとんどの項目で、A、B 評価の回答となり、昨年度よりＣ評価割合も減少した。おおむね前向きに学校生活に取り組めている様子がある。現状に甘んじることなく児童生徒の興味、関心に応じた授業作り、一人ひとりにふさわしい支援や評価のあり方など、日ごろの振り返りも大切にしていきたい。

上記のようにアンケート見直しは行ったが、対象を3，4G 生徒に絞り、解答方法もコメント形式に限定することも検討していきたい。

２　保護者アンケートより

書面通知に加えてオクレンジャーでも協力を呼び掛けたが、回答率は例年並みであった。

全体的に肯定的な評価が多いが、C 評価については具体的なコメント返答もいただいた。教師から各ご家庭に向けて、日ごろのやりとりや本人・ご家庭の希望をしっかりと聞いて取り入れられていること、報連相が積み重ねられていることが全体の好評価の基となっていると感じる。連絡帳も全体的に好評価を得ているが、情報量に個人差が生じないような配慮も必要である。教室環境、いじめ対策等に関しては、今後も対策などを学校だよりや校長講話などを通じての発信を大切にしていきたい。また、授業等の参観もご家庭からの希望に応じ臨機応変な対応ができるようにしていきたい。

・いただいたコメント

○常に情報交換し、子供が無理なくやっていけるよう寄り添って考えていただけている。
○伸びてほしい部分が伸ばされるように計画されていました。
○先生の熱意が良くわかります。
○子供にわかりやすく説明して下さり、できないことはサポートしていただいているので有難い。
○暖かい雰囲気で笑顔も多くありがたいです。
○全員に満遍なく好きなことをさせてもらえていた。
○貴重な体験や、楽しそうな様子をみることができて嬉しく思います。
○興味を持つものや、できそうな事を考えてくださり活動ができていると思います。
○みなさんと関わり合いも感じられたため。
○成長を感じる。
○子供の意思を尊重しながらコミュニケーションをとってくださっている。
・車イスを降りて活動できるスペースがもっとあればなおうれしいです。
・老朽化か？　廊下等が暗いのが気になる。
・体調によっては希望の参観にセンターに戻ってしまう時もあるので２コマくらいの参観を希望させてもらえるとありがたいです。

【項目２】おたよりや連絡帳は、学校でのお子さんの様子を分かりやすく知ることができるものですか。

○毎週、連絡帳の写真を楽しみにしています。
○週末しか帰省できないので、様子がよく分かりありがたいです。
●情報が少なく、学校での様子がわかりにくい。

３　職員アンケートより

Ａ、Ｂ評価を合わせると９割を超える項目がほとんどであり、日々の教育活動に前向きに取り組めている様子が伺える。コメント欄では建設的な意見も多く寄せられたので、職員会を通じて全体周知し、今後に生かしていきたい。

【項目１】個別の指導計画に、自立活動及び教科の視点を取り入れ、指導内容や指導場面の明確化を図り、目標の達成をめざして支援している。

【項目３】研究・研修等で得た知識に基づき、個別の指導計画や年間指導計画等を見直し、日々の実践に繋げている。

【項目５】学習グループ等担当職員で連携しながら授業を進め、複数の目で児童生徒の学び・育ちを評価している。

全県統一の個別の指導計画に移行してから２年が経過した。今後も個別学習、グループ、全体活動、それぞれのねらいを事前に見直し、確認・共有していくことを再確認していきたい。また、そのような時間の位置づけが不定期にならないよう確保していくべきである。

【項目２】児童生徒にとって分かりやすい情報提示や環境整備の方法を工夫している。

【項目８】児童生徒が安全に学習できるように、事前に環境を整えている。

今後も職員間の連携をとり、互いに事故防止を心掛けていきたい。各月の安全点検での危険個所、日頃のヒヤリハット報告などは、タイムリーな周知・共有・改善をはかり、その後の未然防止へとつなげていきたい。

【項目６】児童生徒に適した呼び方や話し方をしている。

【項目７】児童生徒に対して体罰や不適切な言動はない。

不適切な言動はないと１００パーセントの教職員が捉えているが、児童生徒への接し方（呼び方、話し方）には違和感を覚えている職員もいる。同僚の言動を確認しあえる職員体制作り、関係性を構築し、日頃から見直しをしていく状況作りが必要である。

【項目１０】児童生徒のニーズを踏まえ、自立的な生活に向けて、保護者や関係機関と連携し、将来を見通した支援をしている。

保護者の来校機会はコロナ禍以前よりも設けやすくなったが、本校の実態として入所児童生徒のご家庭とは直接接する機会が大変少ない。連絡帳や電話連絡等も積極的に活用し、担当する児童生徒のご家庭や関係機関と情報共有や相談を意図的に心がけていきたい。

【項目１１】より良い学校教育活動にするためのアイディアがあれば、書いてください。

職員から出されたアイディア

〇より良い学校教育活動にするためのアイディア

＜担当児童生徒、グループ、部を超えて全体への意識を大切に＞

・担当児童生徒を固定化しない。自分の担当児童以外の児童にも目を配る広い視野をもつ。

・職員の部間異動、グループ異動は、児童生徒の安全、途切れない支援、保護者の安心のためになる。

＜個別学習、児童生徒のみの活動の見直し＞

・子どもが自力で課題を追求する場面や活動を意図的に設けていきたい。

・個別学習＝発達段階に応じた指導を。特に「もの、こと、ことば、数」の指導については段階的にするべき。

＜職員の連携、情報交換の場を意図的に設ける＞

・連絡や指示を明確にわかりやすく誰にでも届くようにしてほしい。・職員で語れる場を作る。

・日頃からの情報交換を大切に。些細なことでも話せる雰囲気づくり。研修等で学んだことを発信。

＜その他＞

・児童生徒に対して「～さん」」呼称を是非徹底。

・学校目標や部目標を掲示する。そこにつながる重点を月ごとにあげ、職員の士気を高める。

懇談会資料　　令和7年2月21日

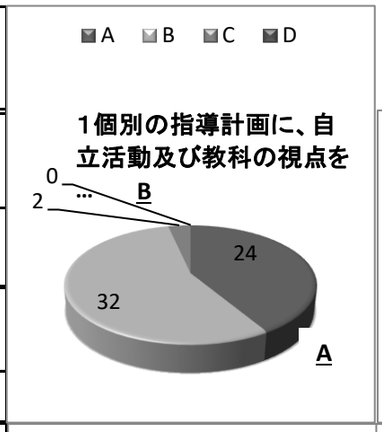
令和6年度　教職員からのアンケート結果

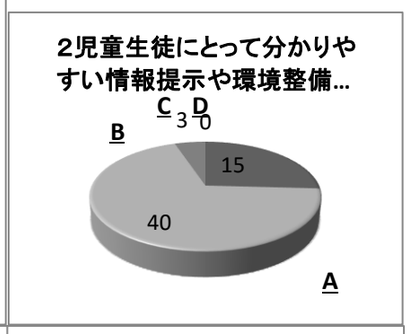
A:そう思う　B:だいたいそう思う　C:あまりそう思わない　D:そう思わない
上段の数字は実数(人)、中段の**太字**は百分率(%)

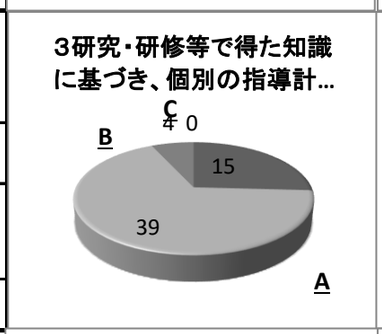
花田養護学校自己評価委員会

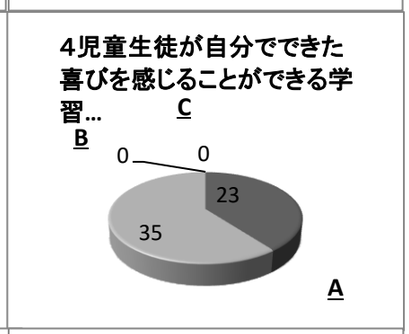
回答数58

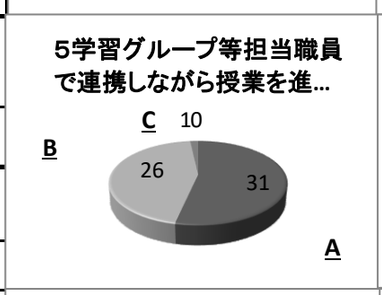
	内　　容	A	B	C	D
1	個別の指導計画に、自立活動及び教科の視点を取り入れ、指導内容や指導場面の明確化を図り、目標の達成をめざして支援して	24	32	2	0
		41%	**55%**	**3%**	**0%**
2	児童生徒にとって分かりやすい情報提示や環境整備の方法を工夫している。	15	40	3	0
		26%	**69%**	**5%**	**0%**
3	研究・研修等で得た知識に基づき、個別の指導計画や年間指導計画等を見直し、日々の実践に繋げている。	15	39	4	0
		26%	**67%**	**7%**	**0%**
4	児童生徒が自分でできた喜びを感じることができる学習内容や教材を工夫している。	23	35	0	0
		40%	**60%**	**0%**	**0%**
5	学習グループ等担当職員で連携しながら授業を進め、複数の目で児童生徒の学び・育ちを評価している。	31	26	1	0
		53%	**45%**	**2%**	**0%**
6	児童生徒に適した呼び方や話し方をしている。	30	22	6	0
		52%	**38%**	**10%**	**0%**
7	児童生徒に対して体罰や不適切な言動はない	48	10	0	0
		83%	**17%**	**0%**	**0%**
8	児童生徒が安全に学習できるように、事前に環境を整えている。	31	25	2	0
		53%	**43%**	**3%**	**0%**
9	お互いに声を掛け合い、事故を未然に防ぐよう努めている。	37	21	0	0
		64%	**36%**	**0%**	**0%**
10	児童生徒のニーズを踏まえ、自立的な生活に向けて、保護者や関係機関と連携し、将来を見通した支援をしている。	26	30	2	0
		45%	**52%**	**3%**	**0%**

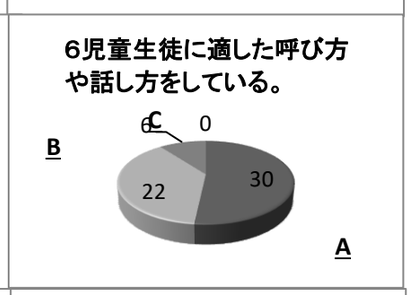


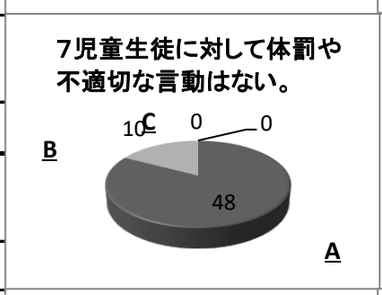


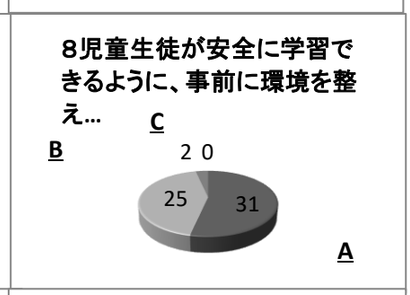


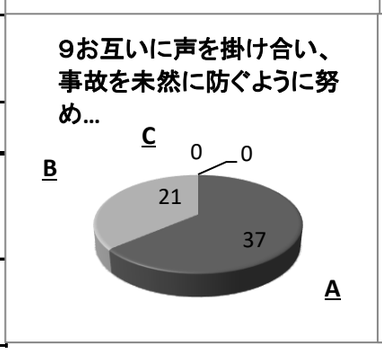


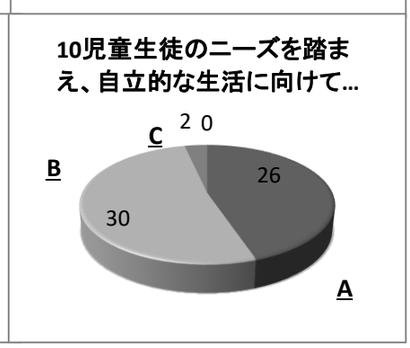








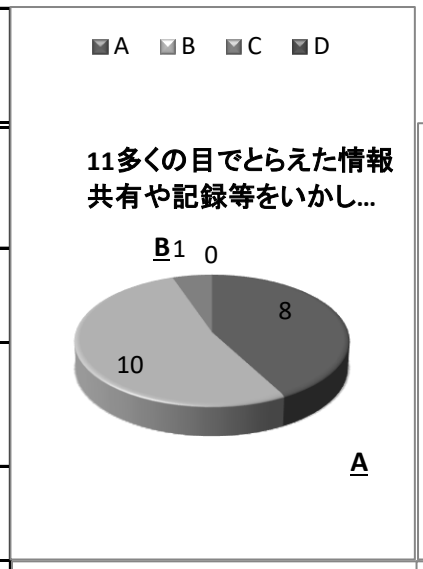


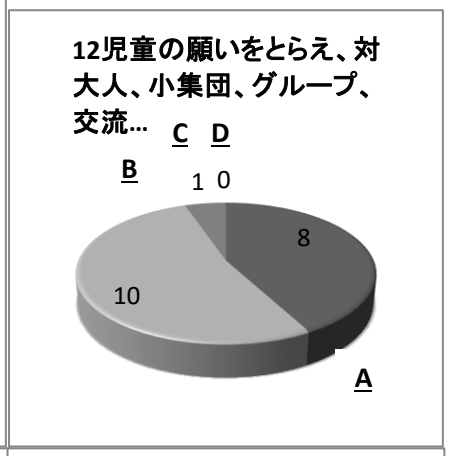


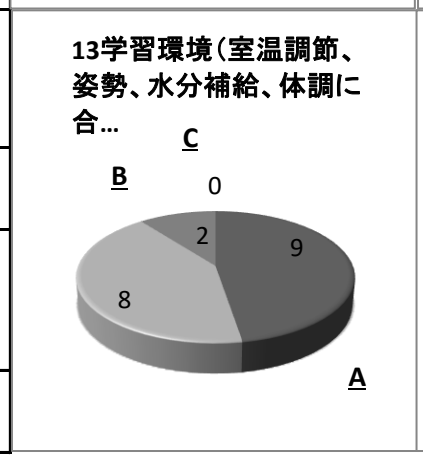
以下の質問は、小学部の職員のみ回答

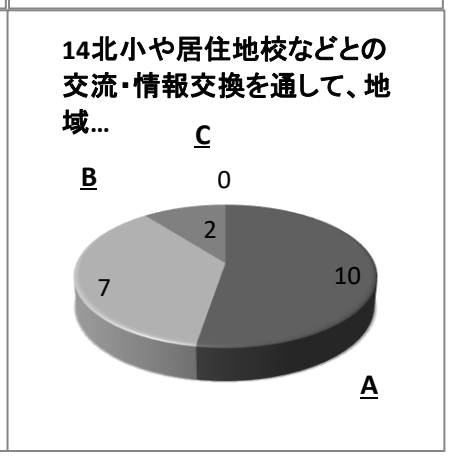
A:そう思う　B:だいたいそう思う　C:あまりそう思わない　D:そう思わない
上段の数字は実数(人)、中段の***太字***は百分率(%)

	内　　容	A	B	C	D
11	多くの目でとらえた情報共有や記録等をいかし，児童一人ひとりに合わせたコミュニケーション能力向上への支援をしている。	8	10	1	0
		42%	**53%**	**5%**	**0%**
12	児童の願いをとらえ、対大人、小集団、グループ、交流などの集団活動の中で主体的に活動できるように支援している。	8	10	1	0
		42%	**53%**	**5%**	**0%**
13	学習環境(室温調整、姿勢、水分補給、体調に合わせた学習進度など)を整え、児童の体調に留意した学習活動を行っている。	9	8	2	0
		47%	**42%**	**11%**	**0%**
14	北小や居住地校などとの交流・情報交換を通して、地域とのつながりを深められるように支援している。	10	7	2	0
		53%	**37%**	**11%**	**0%**







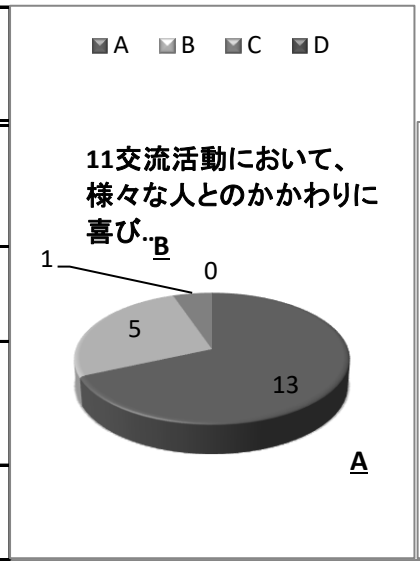


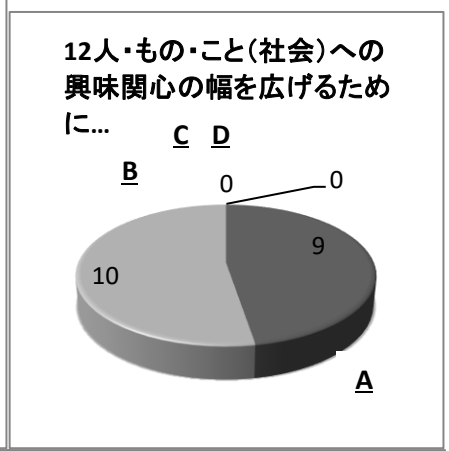
＜職員アンケートまとめ＞
〇A、B評価を合わせると９割を超える項目がほとんどであり、日々の教育活動に前向きに取り組めている様子が伺えました。
コメント欄では建設的な意見も多く寄せられたので、職員会を通じて全体周知し、今後に生かしていくことを確認しました。
〇全県統一の個別の指導計画に移行してから2年が経過しました。今後も個別学習、グループ、全体活動、それぞれのねらいを事前に見直し、確認・共有していくことを再確認しました。また、そのような時間の位置づけが不定期にならないよう確保していきます。
〇今後も職員間の連携をとり、互いに事故防止を心掛けていきます。各月の安全点検での危険個所、日頃のヒヤリハット報告などは、タイムリーな周知・共有・改善をはかり、その後の未然防止へとつなげていきます。
〇不適切な言動はないと１００パーセントの教職員が捉えていますが、児童生徒への接し方（呼び方、話し方）には違和感を覚えている職員もいました。同僚の言動を確認しあえる職員体制作り、関係性を構築し、日頃から見直しをしていく状況作りを行います。
〇保護者の皆さんから来校していただく機会はコロナ禍以前よりも設けやすくなりましたが、本校の実態として入所児童生徒のご家庭とは直接接する機会が大変少ないです。連絡帳や電話連絡等も積極的に活用し、担当する児童生徒のご家庭や関係機関と情報共有や相談を意図的に心がけていきます。

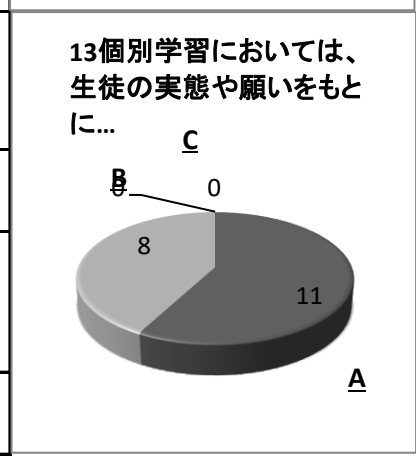
以下の質問は、中学部の職員のみ回答

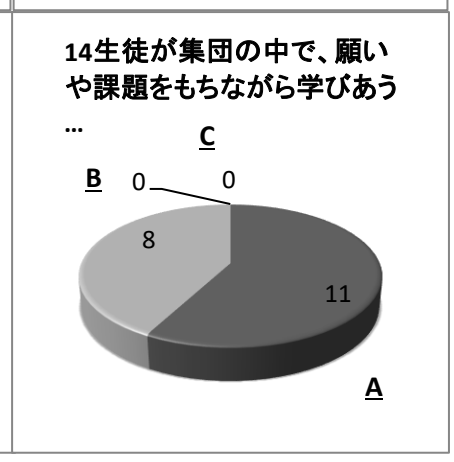
A:そう思う　B:だいたいそう思う　C:あまりそう思わない　D:そう思わない
上段の数字は実数(人)、中段の***太字***は百分率(%)

	内　　容	A	B	C	D
11	交流活動において、様々な人とのかかわりに喜びを見出せるように指導・支援を行っている。	13	5	1	0
		68%	**26%**	**5%**	**0%**
12	人・もの・こと(社会)への興味関心の幅を広げるために、場の設定や教材教具の工夫をしている。	9	10	0	0
		47%	**53%**	**0%**	**0%**
13	個別学習においては、生徒の実態や願いをもとに環境作りや内容を工夫して指導・支援を行っている。	11	8	0	0
		58%	**42%**	**0%**	**0%**
14	生徒が集団の中で、願いや課題をもちながら学びあうために指導・支援を行っている。	11	8	0	0
		58%	**42%**	**0%**	**0%**







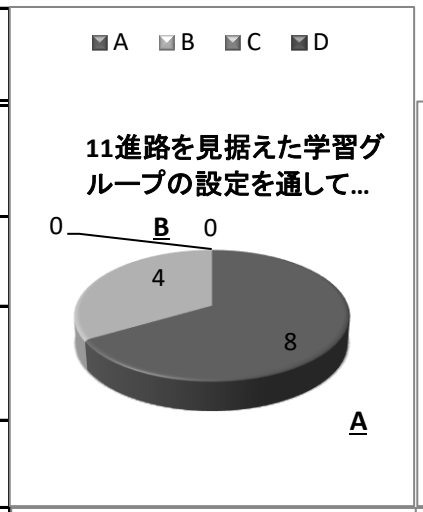


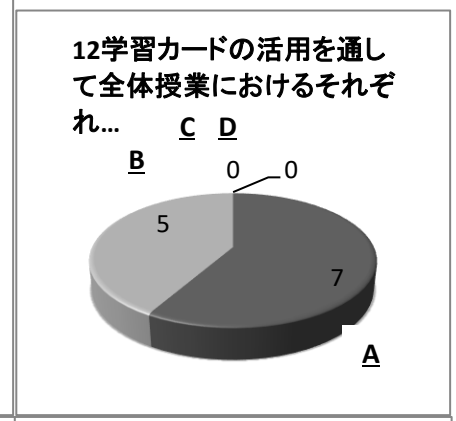
＜職員アンケートまとめ＞
〇A、B評価を合わせると９割を超える項目がほとんどであり、日々の教育活動に前向きに取り組めている様子が伺えました。
コメント欄では建設的な意見も多く寄せられたので、職員会を通じて全体周知し、今後に生かしていくことを確認しました。
〇全県統一の個別の指導計画に移行してから2年が経過しました。今後も個別学習、グループ、全体活動、それぞれのねらいを事前に見直し、確認・共有していくことを再確認しました。また、そのような時間の位置づけが不定期にならないよう確保していきます。
〇今後も職員間の連携をとり、互いに事故防止を心掛けていきます。各月の安全点検での危険個所、日頃のヒヤリハット報告などは、タイムリーな周知・共有・改善をはかり、その後の未然防止へとつなげていきます。
〇不適切な言動はないと１００パーセントの教職員が捉えていますが、児童生徒への接し方（呼び方、話し方）には違和感を覚えている職員もいました。同僚の言動を確認しあえる職員体制作り、関係性を構築し、日頃から見直しをしていく状況作りを行います。
〇保護者の皆さんから来校していただく機会はコロナ禍以前よりも設けやすくなりましたが、本校の実態として入所児童生徒のご家庭とは直接接する機会が大変少ないです。連絡帳や電話連絡等も積極的に活用し、担当する児童生徒のご家庭や関係機関と情報共有や相談を意図的に心がけていきます。

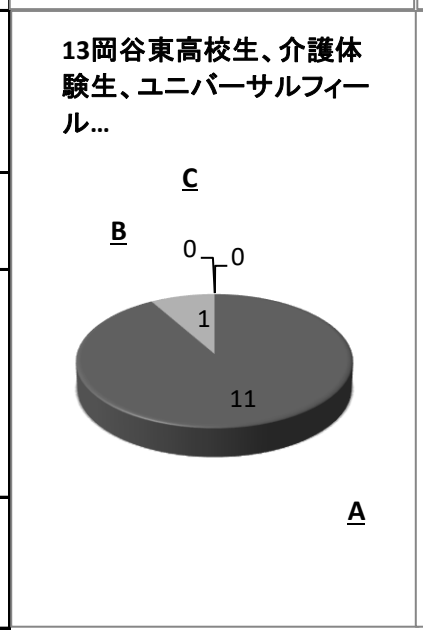
以下の質問は、高等部の職員のみ回答

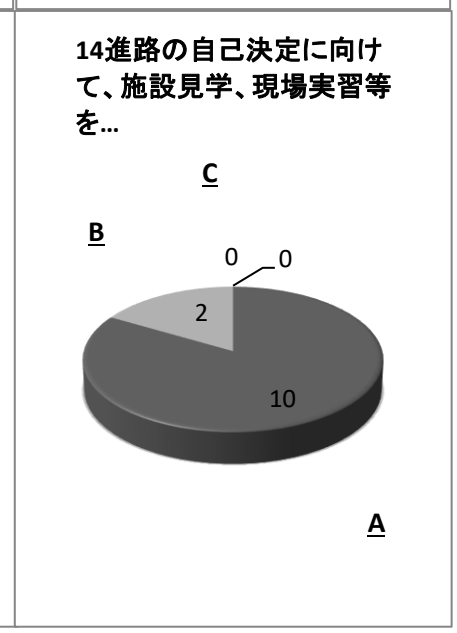
A:そう思う　B:だいたいそう思う　C:あまりそう思わない　D:そう思わない
上段の数字は実数(人)、中段の*太字は百分率(%)*

	内　　容	A	B	C	D
11	進路を見据えた学習グループの設定を通して、それぞれの生徒の可能性を精一杯引き出す支援をしている。	8	4	0	0
		67%	**33%**	**0%**	**0%**
12	学習カードの活用を通して全体授業におけるそれぞれの生徒のねらいを明確にし、手立てを考え、それを達成している。	7	5	0	0
		58%	**42%**	**0%**	**0%**
13	岡谷東高校生、介護体験生、ユニバーサルフィールド体験等の交流は、社会の様々な生き方をしている人たちと関りを深めるような交流になっている。	11	1	0	0
		92%	**8%**	**0%**	**0%**
14	進路の自己決定に向けて、施設見学、現場実習等を計画的(3年間を見通して、卒業後の生活をイメージして)、組織的(学年やグループ、お家の方と連携を図りながら)、継続的(生き方や生活力を見据えて)に進めている。	10	2	0	0
		83%	**17%**	**0%**	**0%**









＜職員アンケートまとめ＞
〇A、B評価を合わせると９割を超える項目がほとんどであり、日々の教育活動に前向きに取り組めている様子が伺えました。
コメント欄では建設的な意見も多く寄せられたので、職員会を通じて全体周知し、今後に生かしていくことを確認しました。
〇全県統一の個別の指導計画に移行してから2年が経過しました。今後も個別学習、グループ、全体活動、それぞれのねらいを事前に見直し、確認・共有していくことを再確認しました。また、そのような時間の位置づけが不定期にならないよう確保していきます。
〇今後も職員間の連携をとり、互いに事故防止を心掛けていきます。各月の安全点検での危険個所、日頃のヒヤリハット報告などは、タイムリーな周知・共有・改善をはかり、その後の未然防止へとつなげていきます。
〇不適切な言動はないと１００パーセントの教職員が捉えていますが、児童生徒への接し方（呼び方、話し方）には違和感を覚えている職員もいました。同僚の言動を確認しあえる職員体制作り、関係性を構築し、日頃から見直しをしていく状況作りを行います。
〇保護者の皆さんから来校していただく機会はコロナ禍以前よりも設けやすくなりましたが、本校の実態として入所児童生徒のご家庭とは直接接する機会が大変少ないです。連絡帳や電話連絡等も積極的に活用し、担当する児童生徒のご家庭や関係機関と情報共有や相談を意図的に心がけていきます。